



『Z世代の生徒達は、デジタルネイティブ世代の完成形』

新学期が始まり、1ヶ月が経過しました。ゴールデン・ウィークも遙か昔の話のように、一日が瞬く間に過ぎていきます。学校では6月1日(土)に開催される第78回運動会に向けての準備が始まり、グラウンドからは生徒達の元気な声が聞こえてきます。そのような中、この1ヶ月弱の学校生活において、SNSによる生徒間トラブルが2件、生活指導部会で報告されました。内容は、グループラインによる誹謗中傷及び画像の不適切な使用です。対処済みではありますが、SNSによるトラブルはどれだけ指導しても後を絶たないのが現状です。私が若かったころの生徒指導と言えば、大抵が学校管理下(登校から下校までの間)の中での出来事でしたので、その場で発見し対応できましたが、SNSトラブルは学校管理下外(下校後・自宅)での出来事のため、対応が後手に回ってしまう現状があります。しかも、被害を受けた生徒が直接教員へ相談してくることは少なく、グループラインの取り巻きの生徒から、ある生徒が攻撃されているというような情報が入ってくることが多く見受けられます。これまでも、SNSのトラブルはありましたが、今回驚かされたことは、グループラインで特定の生徒を誹謗中傷していた生徒に聞き取りをしたところ、誹謗中傷をしていた特定の生徒とは小学校も違い、中学校でのクラスや部活動等も違い、直接会ったり、直接話した事もない生徒だったと言うことでした。

つまり、グループライン内で他者が特定の生徒に対する心ない書き込みを読んだ生徒が、書き込まれた内容の事実を確かめることなく、その内容を鵜呑みにし、その特定の生徒へ誹謗中傷を繰り返していたということなのです。芸能人やスポーツ選手、小説作家等が、心ない書き込みや、誹謗中傷により自殺すると言った痛ましい事件を耳にしたことがあるかと思いますが、この事案も一人の人物の書き込みから始まり、その内容を鵜呑みにし、事実や背景を確認することもなく、第三者が攻撃を繰り返した結果です。

インターネットやアプリは、安全に正しく使うことができればとても役に立つツールです。しかし、残念ながら、誹謗中傷やいじめの温床になったり、生徒が事件・事故に巻き込まれる切っ掛けになったりしていることも事実で、生徒達が被害者だけでなく、加害者になるケースも生じています。これからの時代を生きる子どもたちにとって、情報活用能力は不可欠、避けて通ることはできません。ですから、インターネットやスマートフォンを始めとするデジタル機器、SNSによるコミュニケーションなどを「賢く安全に使うための知識と知恵」や「ルールを守って使える心」を育むことが大切です。そのためには学校と家庭の連携が必須となることは言うまでもありません。学校では社会通年上のSNSルールではなく、法的根拠に基づいたSNSルールを全生徒に周知しています。ご家庭では、なぜスマートフォンが必要なのか、どのようなことに使うのか、まずは子どもの気持ちを聞いていただき、目的を確認した上で、使い方を一緒に考えてみるといいのかもしれませんが、大人が勝手に決めつけたルールを押しつけても効果は期待できません。子どもの言い分にも耳を傾けながらじっくりと話し合い、家庭でのルールを決めていくことをおすすめします。また、利用範囲や時間、課金、各種制限など、子どもの発達・成長段階に合わせてルールを調整するといいいのかもしれませんが。子どもと定期的に家庭内ルールについて話し合うことは、保護者が子どもから新しい情報を得る機会にもなり、お互いの理解が高まることと思います。また、18歳未満の子どもには「フィルタリング」を活用して安全に使うことが、携帯電話を子どもに買い与えている保護者の役割でもあります。ご存じかと思いますが、Andoroidの端末には「安心フィルター」といったフィルタリング機能があります。IOS(iPhone, iPad)端末は「あんしんフィルター」によるアプリのコントロールができないので、下記の手順で設定することができますが、パスワードの管理は必ず保護者が行って下さい。

(1) 機能制限を行う

ホーム画面「設定」→「一般」→「機能制限」→「機能制限を設定」→「機能性減容パスコード入力」
→「再度パスコードを入力」→(Appの「年齢制限」をするに移る)

(2) Appの「年齢制限」をする

ホーム画面「設定」→「一般」→「機能制限」→「機能制限」を設定→「App」を選択→「Appレート」の年齢にチェックする

大人のために作られた道具を使って、子どもたちが意図せずトラブルに巻き込まれることがないよう、フィルタリングを上手に活用していただくと幸いです。

■ Z世代？とデジタルネイティブ？

「Z世代」は明確な定義はありませんが、一般的には1990年代から2012年頃に生まれた世代を指し、2023年時点では20代前半から10歳前後の年齢の人が該当するそうです。また、「デジタルネイティブ」とは一般的に「インターネットやデジタル機器がある環境で生まれ育った人」の総称として使われ、年代はZ世代と同様となり、Z世代の生徒達は、デジタルネイティブ世代の完成形とも言われています。デジタルネイティブは物心ついた頃からスマートフォンやタブレット端末など、デジタル機器が身近にあり、自然とそれらを使いこなすようになり、ネット利用はスマートフォン経由となってパソコンは学校の授業で使う程度、自宅でもほとんど使わない世代が増え、Z世代のデジタルネイティブは、スマートフォンは使えるが「パソコンは初心者」といった意外な一面があるそうです。また、友人との付き合いもSNSを介して始まり、就職活動もほぼネット経由で行い、最近では婚活さえ専用アプリでという人が少なくありません。紙の新聞を読まないことは昨今の風潮を考えると特に目新しくありませんが、テレビを見ないどころか、自宅にテレビを置かない若者も増えてきているそうです。また、電話で話す機会もほとんどありません。「メールやSNSでの連絡の方が記録に残るし、時間と場所を選ばずいつでも送れるから確実」という合理的な理由があるからだそうです。また、「まずは自分の頭で考える」のではなく、「まずは情報を得てそれから考えよう」と言った傾向が顕著に表れます。もちろん、インターネットにある情報が常に正しいものでないことは理解していますが、スマートフォンを経由したネットでの情報収集が中心となるデジタルネイティブ世代は、自分が必要とする情報のみを収集しながら、情報の信憑性を取捨選択しながら生活を送ることになります。ですが、時にはネット情報に騙されてしまうこともあります。以下にネット情報に騙されやすい人の共通点を記載しますので自分の姿と比べてみて下さい。

■「ネット情報に、つい騙される人」残念な5大共通点（東洋経済ニュース抜粋）

- 1 「記事が正しいかどうかを『肩書き』で決めつけてしまうこと」
記事の中で「専門家によると」と言うコメントがあったりすると、「専門家」と言う肩書きだけに騙され信じてしまう。
- 2 「1カ所だけの情報」で物事を判断してしまう
何かの出来事があったとき、それについて「1つ」のニュースや記事だけを読んで「知った気」になってしまふ。
- 3 「偏った情報」ばかり見てしまう
ネット情報は、紙の新聞や雑誌などと違って、良くも悪くも「自分が見たい情報だけを見る」特性があり、よほど気を付けてみないと理解の仕方が「偏ってしまう」傾向が強くなってしまふ。
- 4 「公開されていない秘密の情報」を信じてしまう
政府や自治体を持っているものも含め、多くの情報が公開されています。ところが、中には「私だけが知っている、公開されていない秘密の情報」を知っていると語るサイトがあります。もちろん、「公開されていない秘密の情報」は決してゼロではありませんが、この手の記事は、ほぼ総じて「根拠のない陰謀論」と思って間違いないようです。
- 5 「知り合いが勧めた情報」を鵜呑みにしてしまう
知り合い・友達が勧めてくれた情報だと「自分が知っている人の話だから」と、そのまま鵜呑みにしてしまいがちですが、なかには、騙されてしまう場合もある。また、人にもよりますが「知人から送られて来る情報は、その人の『フィルター』を通した記事であり、その人の主観が加筆されていることもあり、当然『偏り』があることも少なくない」と認識しておく事が重要です。

3・5番目の内容は、前段に述べた校内で起きたSNSトラブルにつながるものがあります。生徒の皆さんには、SNSで送られてきた情報は、送信してきた友達のフィルターを通した情報であること、または、他の友達から送信された内容を、確かめることもなく鵜呑みにして拡散された情報であるのかもしれないといった視点をもって、内容の真実性の取捨選択をしてほしいと思います。また仮に送信されてきた内容が過去に起きた事実だとしても、今現在はどうかと言った「真実を確かめる」眼をもって欲しいと考えます。また、SNSでの誹謗中傷に対し、誹謗中傷を受けた本人から事実を知ってもらいための「反論」あるいは「抗議」、「内容の修正依頼」等が返信されることもあるかと思えます。冷静に考えれば、こういった行動は正当な行為と思えますが、そういった内容に対して「うざい」と言うような誹謗中傷を更に繰り返すと言ったことが現代のSNSトラブルの中では頻繁に起きているようです。もしも自分自身がSNS上で誹謗中傷されたらと想像してみてください。真実を知ってもらおうと抗議しても誰からも受け入れられなかったらどんな気持ちになるでしょうか。このメールを送信したら…、この画像を送信したら…、受信する相手はどんな気持ちになるのか、常に自分事として捉え、いつでも、相手の気持ちを『慮る』ことのできる、そんな人になれば、SNSのトラブルはなくなるのではないのでしょうか。今一度、自分の携帯を手に取り自分の送信履歴を確認してみてください…。あなたは大丈夫ですか？

| 令和6年度 | | 5月行事予定表 (家庭用) | | | | 中野区立第二中学校 | | | | |
|---------------------------|---|--------------------------|------------|-----|-------|-----------|-------------|---|----------------------------------|-----|
| 今月の目標: 委員・係・当番の仕事をきちんとやろう | | | | | | | | | | |
| 日 | 曜 | 行 事 | 会議・生徒会・その他 | 時 程 | 学 習 室 | 給 食 | 6月行事予定(22日) | | | 給 食 |
| | | (授業日数22日) | | | | | 日 | 曜 | 行 事 | |
| 1 | 水 | 安 学 開校記念日 | | | | ○ | 1 | 土 | 第78回運動会 | ○ |
| 2 | 木 | 身体計測(全) 委員会 I | | | | ○ | 2 | 日 | | |
| 3 | 金 | 憲法記念日 | | | | | 3 | 月 | 振替休業日 | |
| 4 | 土 | みどりの日 | | | | | 4 | 火 | 朝礼 安 | ○ |
| 5 | 日 | こどもの日 | | | | | 5 | 水 | 学 腎臓検診2次 | ○ |
| 6 | 月 | 振替休業日 | | | | | 6 | 木 | 耳鼻科検診 専門中央委員会 | ○ |
| 7 | 火 | 学年朝礼 避 ①学習コンテスト | | | | ○ | 7 | 金 | 教育実習終 腎臓検診2次 連携教育の日オープンキャンパス① | ○ |
| 8 | 水 | 中教研(総会・領域) | | | | ○ | 8 | 土 | 土曜授業 いのちの授業(2) | × |
| 9 | 木 | 専門中央委員会 心臓検診(1) | | ★ | | ○ | 9 | 日 | | |
| 10 | 金 | 内科検診(2) | | | | ○ | 10 | 月 | 生徒朝礼 (実習生挨拶) | ○ |
| 11 | 土 | 土曜授業 部活動保護者会 | | | | × | 11 | 火 | 避 | ○ |
| 12 | 日 | | | | | | 12 | 水 | 中教研(教科) | ○ |
| 13 | 月 | 生徒朝礼 | | | | ○ | 13 | 木 | 眼科検診 | ○ |
| 14 | 火 | | | | | ○ | 14 | 金 | | ○ |
| 15 | 水 | 連携教育の日小中連携協議会① 腎臓検診1次 | | | | ○ | 15 | 土 | | |
| 16 | 木 | 歯科検診 | | | | ○ | 16 | 日 | | |
| 17 | 金 | 生徒総会 | | | | ○ | 17 | 月 | 音楽鑑賞教室(2) | ○ |
| 18 | 土 | | | | | | 18 | 火 | 定期考査 I (3) | ○ |
| 19 | 日 | ふれあい運動会 | | | | | 19 | 水 | 定期考査 I (全) | ○ |
| 20 | 月 | 朝礼 教育実習始 | | | | ○ | 20 | 木 | 定期考査 I (全) 小交流会(I) | ○ |
| 21 | 火 | | | | | ○ | 21 | 金 | | ○ |
| 22 | 水 | 職腎臓検診1予備 | | | | ○ | 22 | 土 | | |
| 23 | 木 | | | | | ○ | 23 | 日 | | |
| 24 | 金 | 英語検定 | | | | ○ | 24 | 月 | 学年朝礼 | ○ |
| 25 | 土 | | | | | | 25 | 火 | I組宿泊前検診 | ○ |
| 26 | 日 | | | | | | 26 | 水 | 職 I組宿泊 | ○ |
| 27 | 月 | | | | | ○ | 27 | 木 | I組宿泊 | ○ |
| 28 | 火 | 運動会予行 | | | | ○ | 28 | 金 | | ○ |
| 29 | 水 | 研 | | | | ○ | 29 | 土 | | |
| 30 | 木 | | | | | ○ | 30 | 日 | | |
| 31 | 金 | | | | | ○ | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | |